大 麦 管 理 情 報 （第２号）

令和８年11月16日
農業技術課 広域普及指導センター

１　気象経過

（１）気温（図１）

・９月下旬の平均気温は、22.0℃（平年差＋1.3℃）と平年に比べ高かった。
・10月の平均気温は、18.6℃（平年差＋1.6℃）と平年に比べかなり高かった。
・11月上旬の平均気温は、12.9℃（平年差－0.3℃）と平年並、３半旬は14.2℃（平年差＋2.6℃）と高かった。

（２）降水量（図２）

・９月下旬の降水量は、47.5mm（平年比71%）と平年並であった。
・10月の降水量は、214.5mm（平年比125%）と平年に比べ多かった。
・11月上旬の降水量は、72.0mm（平年比114%）と平年に比べ多く、３半旬は17.0mm（平年比47%）と少なかった。

（３）全天日射量

・10月の平均全天日射量は、11.2MJ/㎡/日（平年比107%）と平年に比べ多かった。
・11月上旬の平均全天日射量は、6.8MJ/㎡/日（平年比82%）と平年に比べ少なく、３半旬は10.0MJ/㎡/日（平年比143%）とかなり多かった。

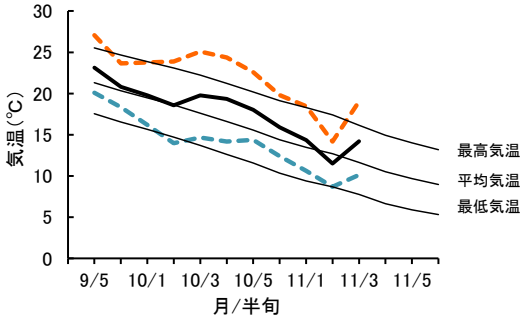


図１　気温の推移（富山地方気象台）

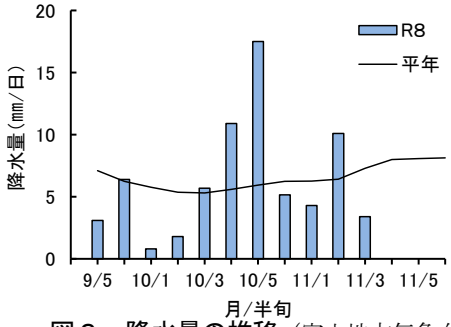


図２　降水量の推移（富山地方気象台）

２　生育概況

平年に比べ、草丈はやや短く（平年比92%）、㎡当たり茎数は少なく（同比85%）、葉齢は並（平年差＋0.1）、葉色はかなり淡く（SPAD、同差－3.7）なっている。播種後１か月（11/15頃）の目標茎数570本/㎡程度に達していないほ場は、10か所中６か所と多くなっている。

表　大麦の生育状況（11月16日）

年産	播種日（月/日）	苗立数（本/㎡）	草丈（cm）	茎数（本/株）	茎数（本/㎡）	葉齢（葉）	葉色（SPAD）
R9	10/6	173	24.6	2.6	445	5.3	35.6
R8	10/6	148	24.1	2.9	440	5.2	39.2
平年	10/6	173	26.7	3.0	523	5.2	39.3
平年比・差	0	100	92	86	85	0.1	-3.7

注１）調査ほ場数10、播種様式は全てドリル播き
注２）平年：H29～R８年産の平均

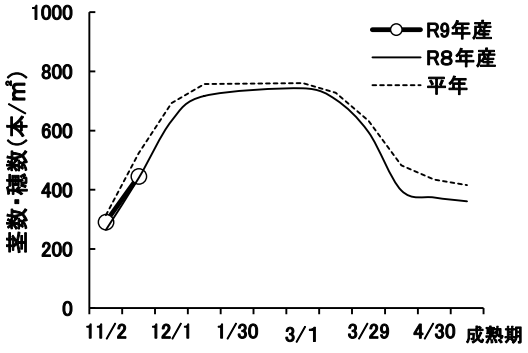


図３　茎数の推移

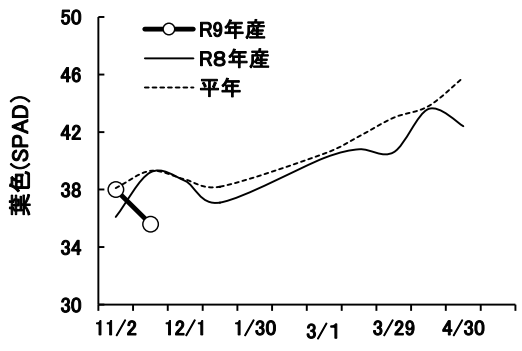


図４　葉色の推移

3　当面の技術対策

（１）排水対策の徹底

・停滞水があり茎数が少ないほ場が見られることから、越冬前に目標茎数（600～800本/㎡）を確保するため、排水溝の手直しを行うとともに深く掘り下げた排水口への連結を徹底する。

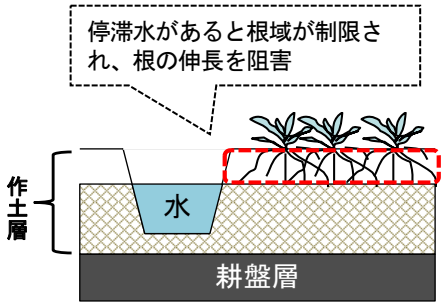
【排水不良のほ場】　溝に水がたまっている・葉の黄化



溝が連結されていない



溝が埋まっている





排水口へ



排水溝の高い部分や埋まりを取り除き、排水口へ連結する

停滞水がない



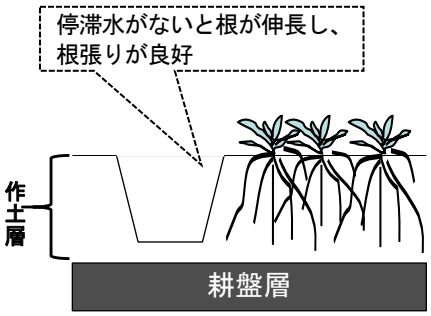


図５　排水対策のイメージ

（２）年内追肥

【肥効調節型体系】

・播種後１か月頃の茎数がかなり少なく（400本/㎡以下）葉色が極端に淡い（SPAD　30程度）ほ場では、排水対策を徹底した上で、窒素成分で２kg/10a以内で追肥する（図６）。

・肥料の吸収効率を高めるため、11月中に施用する。

【分施体系】

・大麦の吸収や溶脱により、基肥窒素は土壌中の残存量が少なくなることから、播種後１か月頃に窒素成分で４kg/10aを目安に追肥する。

・年内追肥は原則として、播種後１か月頃の１回のみとするが、12月初めの生育が茎数500本/㎡以下で、葉色（SPAD値）が30以下のほ場では、窒素成分で２kg/10a以内で施用する。

※追肥に尿素を使用する場合は、散布ムラに注意し、固結しやすいことから開封したら使い切る。

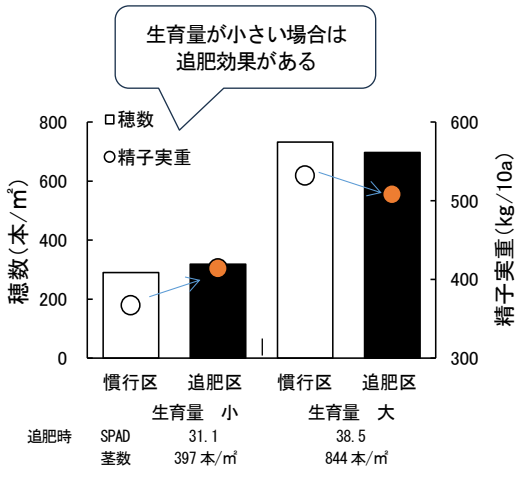


図６　播種 40～50 日後の追肥と穂数及び収量の関係（R2・3 年産）

注）追肥窒素量　生育量小：2kg/10a、生育量大：1kg/10a